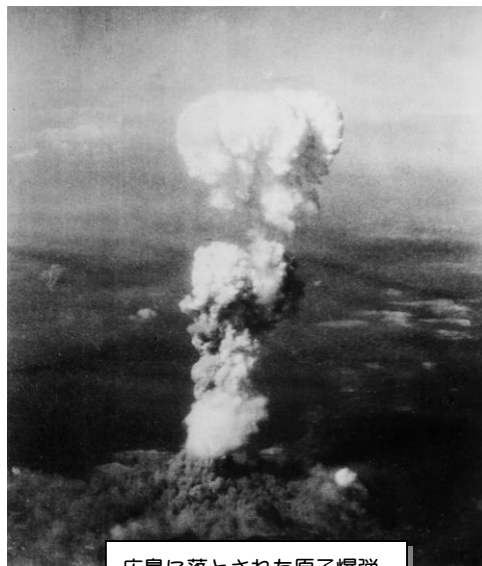


「1945年8月6日」 って何の日だか知っていますか？



広島に落とされた原子爆弾

こんなTVの番組宣伝の1シーンを見たことがありますか。答えられない人がいるのに驚きました。ちょっと日本の歴史を振り返ってみましょう。

今年は2008年。終戦から63年経ちました。1945年8月6日午前8時15分、人類初の原子爆弾が広島に落とされました。8月9日午前11時2分には長崎に2発目の原子爆弾が落とされます。日本は世界で唯一の被爆国です。当時日本は太平洋戦争と呼ばれる戦争の真っただ中にありました。

日本は1931年の満州事変から日中戦争(1937年の盧溝橋事件以後)を経て太平洋戦争(1941年真珠湾攻撃以後)、1945年のポツダム宣言受諾による無条件降伏に至るまでの約15年間全世界を相手に戦争をしてきました。

当時の日本は、金融恐慌や昭和恐慌など、社会不安が増大し、閉塞感が蔓延していました。無力で失策を続ける政府に多くの国民は失望し、逆に軍部への期待が高まりました。軍部は、国内の不満を海外に向け、同時に、国外に活路を求める以外に無いという、膨張政策を取りました。次々と他国の侵略を繰り返し、破滅的な戦争に突入していきました。そして、敗戦。戦後この無謀な戦争の反省に立って、日本国憲法が制定され、平和と民主主義の新たな歴史を歩み始めました。

それにしても、代償はあまりにも大きいものでした。この15年間の戦争で、軍、民間人あわせてその犠牲者は300万人と言われています。特に戦争末期の2度の原子爆弾では広島で14万人、長崎で7万人の尊い命が一瞬にして奪われました。

ちちをかえせ ははをかえせ
としよをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを

へいわをかえせ

峠三吉 詩集より

第4回

おがわ町九条の会総会

のご案内

日時 2008年9月7日(日) 午後2時から(1:30 開場)

会場 小川町図書館視聴覚室

内容 第一部 総会 事業報告 決算報告 監査報告 次年度事業計画 予算案

第二部 記念講演(3時半から)

小森陽一氏(九条の会事務局長)

「憲法九条は世界のたからもの」

～9条学ぶことは未来への希望もつこと～

「おがわ町九条の会」も結成から3周年をむかえました。この間、「憲法9条を守る」という一点で、大きく運動を広げてまいりました。おかげさまで会員数も400名を越え、たくさんの町民の皆様にご支持をいただくようになりました。ここに上記により定期総会を開きます。今回、東大文学部教授として、また、九条の会事務局長としてご活躍の小森陽一氏をお招きすることになりました。会員の皆様に限らず、たくさんの皆様のご来場をお待ちしています。入場は無料です。

全国「九条の会」学習会

- ◇ テーマ 名古屋高裁判決と派兵恒久法
 - ◇ 9月13日(土)午後1時30分～4時
 - ◇ 会場 星陵会館(地下鉄・永田町下車)
 - ◇ 参加費 1000円
- ◇ 講師
- 小林武(愛知大学教授)
 - 名古屋高裁イラク訴訟で鑑定意見書
 - 半田滋(東京新聞編集委員)
 - 自衛隊の実態を克明に調査
 - 渡辺治(一橋大学教授)
 - 今日の情勢と派兵恒久法を語る

※「資料集 名古屋高裁判決・砂川事件判決=おがわ町九条の会発行」お入用の方は事務局まで

リレーメッセージ



「聞いて!聞いて!私の声」・・・「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を集めてゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。

戦争の思い出

奥野 利雄 (大塚)

とにかく無茶な戦争でした。(戦争末期には)ろくな武器、装備もなかったのです。だいたい私たちが持たされた銃は三十八式歩兵銃、これは日露戦争(明治37年~38年)のときの銃で、これで相手の自動小銃と対抗できますか。戦争中のことをふりかえてみると従軍慰安婦のことで、軍は関与しなかったと、言うことがいわれますが、そんなことはありません。軍が管理している施設の中に慰安施設がありました。

そもそも満州事変も上海事変もみな(日本が)自分たちでデッチ上げた事件で戦争にしたのです。靖国神社に祀られている人の大部分は今度の戦争の犠牲者でしょう。東条(英機)さんたちが戦争を起こさなければ、(祀られている人の多くは)死ななくても済んだわけです。そういう人(東条など)を靖国に祀るというのはおかしいです。小泉さんは特攻隊の基地に行って遺書を見て感激したというけれど、そんなこと言うのでなく、そこまで追い込んだことをなぜ非難しないのか。

昭和13年に国家総動員法ができて、国民はがんじがらめにされてしまいました。奢侈禁止令というのもあった。おしゃれはだめとか、派手な着物を着ていると、「ぜいたくはやめなさい」とか言われたり、婚約者が二人並んで歩いていたら、「戦争中なんだ、男と女が並んで歩くのはけしからん。離れて歩け」なんて言われることになりました。

今、おかしい動きが起こってきています。この平和がひっくりかえされるのは非常にこまる。それが少しずつやられるのが一番怖い。この憲法、外国から何と言われようと「この前の戦争(の反省)で、憲法で軍備を持たないと決めたのだから、兵隊は出しません」と、それ一本槍でやりゃいいんですよ。それで軍備で使わない金を世界平和のために使うという方向にもっていけば、本当に国民のためになる。軍備は金を泥沼にすてるようなものでしょう。



中国出征を前にして、ご母堂様と

はしれ! そうれっしゃ

7月20日、昨年に続き、町民と子ども達、保護者100名(親子で歌う会、瀬田多美子代表)が、パトリアおがわで音楽会を開きました。戦争の苦難の時代に動物園でゾウを守り抜き、戦後子どもたちの夢を乗せ、ぞう列車を走らせた人たちがいた。事実に基づいて作られた組曲「ぞう列車がやってきた」。平和を祈って心をついに子ども達の元気な声が会場一杯に響き渡りました。曲中のメッセージを実行委員会にお話しを頂いて掲載させていただきます。

◆戦争はこわいと思いました。ぼくは戦争で死にたくありません。小学二年生男子

◆わたしは“ぞうれっしゃ”を歌って、戦争中は人間だけでなく、動物たちも大変だったなと思いました。わたしはずっと戦争が起こらないように心をこめて“ぞうれっしゃ”を歌っています。小学六年生女子

◆戦争でたくさんの人がなくなったという話を聞きました。いまさっきまで遊んでいた友達も一回の爆弾でもうずっと遊べなくなったり、家族もみんなバラバラになったりと、戦争はとても怖いものだったなと思います。私はこれからもずっと平和な世界のままです。小学六年生女子

◆私も、私の子どもたちにも、もう戦争という体験をさせたくありません。テレビでよく戦争の番組を見ますが、そういう番組を見るととてもとても悲しくなります。早くいろんな所の戦争がなくなって平和な地球になって欲しいと思います。母親(小六と小一の二児の母)

◆もし私の子どもたちに徴兵命令が下ったら、たとえ非国民と言われようとも、どんな手を使ってでも決して戦争に行かせることは出来ません。そして我が子に生きて帰るために人を殺せと教えることは出来ません。争いからは何も生まれません。戦争という悲劇を二度と起こさないためにも、この歌を通して語り継いでいかなくてはいけないと思います。母親(4歳と1歳の二児の母)

◆動物園でゾウを見ていることが出来るのも、このように音楽会を開いていることが出来るのも日本がいま平和だからではないでしょうか。子どもたちの、大人たちの、命と幸せを奪い、罪もない動物たちを殺さなくてはならない戦争。そんなことは絶対に許してはなりません。また、戦争は最悪の地球環境破壊でもあります。男性(66歳、成人のお子さん二人)

◆皆さん、この子どもたちのはじけるような、明るく元気な歌声を聴いていたと思います。私はこの“ぞうれっしゃ”の練習の度に、毎回、毎回、胸が熱くなりました。私の願いはたった一つです。この子どもたちに、戦争のない平和な地球を、青く美しいままの地球を渡したい。それだけです。そのためにも私たちの誇りである憲法第九条を命のある限り守りぬいていきたいと思っています。男性(66歳、三人のお孫さん)

